

石神池 (いしがみいけ)

位置図



諸元

貯水量	769 千m ³
満水面積	10 ha
受益面積	220 ha
堤高	21 m
堤長	200 m

さぬき市前山付近の旧阿波街道を多和に抜ける途中、前山の山麓にかかるとゆったりした石神池の姿が見えてきます。

昔、石神池の上流には小さな池があったようで、切池という地名が残されています。その小さなため池が姿を消した後に、規模を大きくして築かれたのが石神池だと伝えられています。

寛文2年(1662年)に、庄屋達が連名で高松藩に築造を願い出て、藩の普請工事として行われました。

天保8年(1837年)には、庄屋の蓮井藤左衛門らが率先して、築造後初のゆる替え(取水施設の更新)と、2間(約3m)の嵩上げ工事を行いました。

大正6年(1917年)には、底ゆるを岩盤を掘削した石穴に変更し、昭和3年(1928年)には洪水吐の改修工事と補強工事が行われました。

さらに昭和15年(1940年)には、鴨部川から隧道を通して水を引き、昭和27~38年(1952~1963年)には、再び嵩上げ工事が行われ、貯水量は一挙に5倍に増強されました。

香川用水の通水後も石神池の必要性は高く、地域には農業用水としてはなくてはならないため池です。



石神池